

平成二十八年十一月六日

平成改修法要



五劫山
法藏院

お礼

平素、法蔵院檀信徒様、関係の皆様には平素護寺運営に深くご理解ご協力いただきありがとうございます。

この度、「法蔵院平成改修事業」を無事に遂行できたことは阿弥陀様のご加護、総代様、世話人様、檀信徒様、

はじめ多くの関係の皆様からのご支援の賜物と深く感謝いたします。ありがとうございます。



法蔵院住職として

私は、昭和 61 年、大学卒業後、先代 54 世と共に法務に勤めてまいりました。昭和 63 年副住職就任、併せて現在の山門建立開眼供養を勤めました。平成 18 年、住職就任は、総代様宅からお練り行列で本堂に昇殿、晋山式を無事に勤めることができました。

平成 24 年 12 月 先代政雄上人が遷化され、翌平成 25 年 1 月に本葬儀を厳修。多くの方にお悔みをいただきました。ありがとうございます。

津久井浜学園として

法蔵院が経営する津久井幼稚園では、平成 12 年、園長就任、平成 24 年津久井浜学園理事長就任。少子化が進む横須賀三浦地区に於いて現在 560 人の園児に囲まれ楽しく過ごしています。また先代も務めた、神奈川県私立幼稚園連合会副会長の任務をいただいております。

法蔵院平成改修

大学卒業後、31 年間、僧侶として法蔵院の寺門の興隆に努め、津久井幼稚園で幼児教育に携わってまいりました。

今ここに、先代が成し遂げることができなかった、

阿弥陀三尊、善導大師、法然上人、歴代上人はじめ、本堂瓦葺き替え等々、諸々の修繕事業を遂行しました。

現在の本堂、客殿、庫裡、山門、地藏堂、水汲み場など法蔵院境内の建築物は全て先代が建立され、幼稚園の園舎に於いては新旧 2 回建築しました。

この度修繕した「歴代上人」は法蔵院に特に功績があった上人だと、先代から聞かされております。落成法要には間に合いませんが、先代 54 世政雄上人の功績を称え政雄上人像を建立し本堂内へ歴代上人と共に安置し、今後法蔵院を見守っていただく所存です。

大きな改修事業を無事完遂できましたこと改めて御礼申し上げます。ありがとうございます。

法蔵院平成改修事業

- ① 法蔵院阿弥陀如来像、観音菩薩、勢至菩薩、善導大師、法然上人、歴代上人像改修
- ② 法蔵院第 54 世政雄上人像建立
- ③ 誕生仏、花御堂改修
- ④ 堂内常華新調
- ⑤ 堂内大太鼓表皮張替え
- ⑥ 本堂瓦吹替え工事
- ⑦ 境内地外壁改修
- ⑧ 納骨堂新築
- ⑨ ペット納骨堂新築
- ⑩ 水汲み場建屋工事
- ⑪ 山門修繕工事



本尊



阿弥陀三尊（あみださんぞん）は、仏教における仏像安置形式の一つである。阿弥陀如来を中尊とし、その左右に左脇侍の観音菩薩と、右脇侍の勢至菩薩を配する三尊形式である。根拠は無量寿経・観无量寿経である。観音菩薩は阿弥陀如来の「慈悲」を表す化身とされ、勢至菩薩は「智慧」を表す化身とされる。



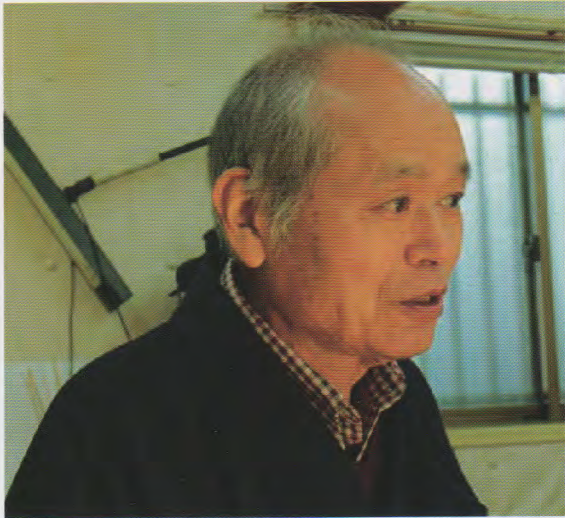
観音菩薩



勢至菩薩



■ 仏師の紹介

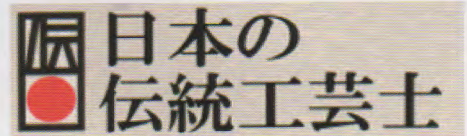


中西祥雲 仏師

1970年 故 中西祥雲（養父）師事
1988年 二代目中西祥雲継承

京の名工

（京都府伝統産業優秀技術者）



■ 仏師の紹介 ～主な製作例～

第六番 温泉山 安楽寺

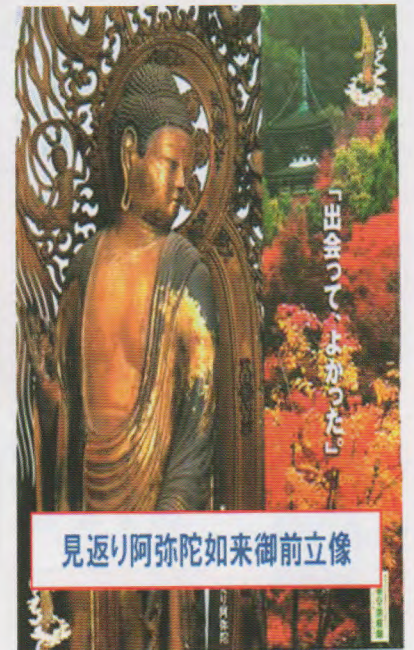


本尊阿弥陀三尊像

大本山永平寺



浄土宗西山禅林寺派
總本山 永観堂 禅林寺
Eikando Zenrinji, Kyoto



見返り阿弥陀如来御前立像



三門四天王像修復

寺宝展 11月1日(火)～11月30日(水)
ライトアップ 11月8日(火)～11月30日(水)

「出金つて、よかつた。」

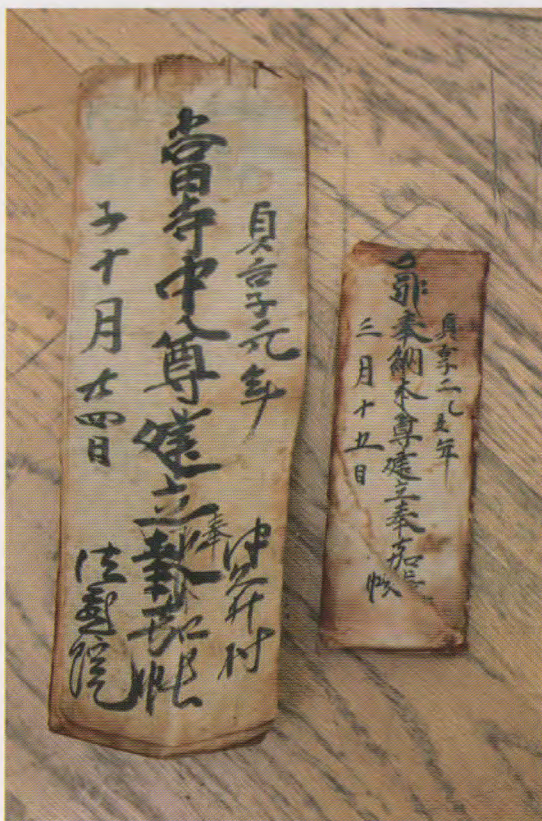
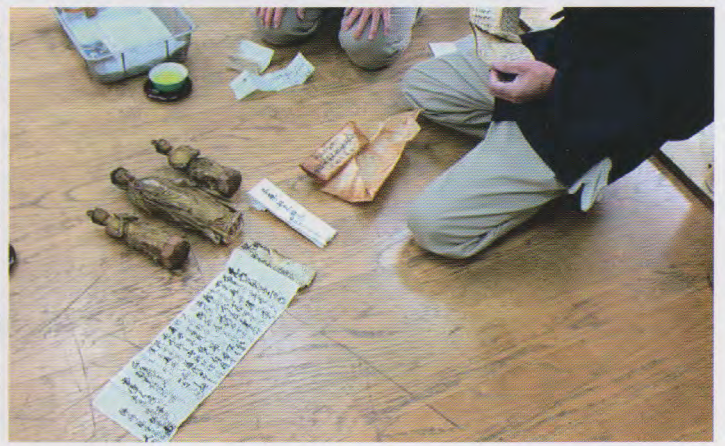
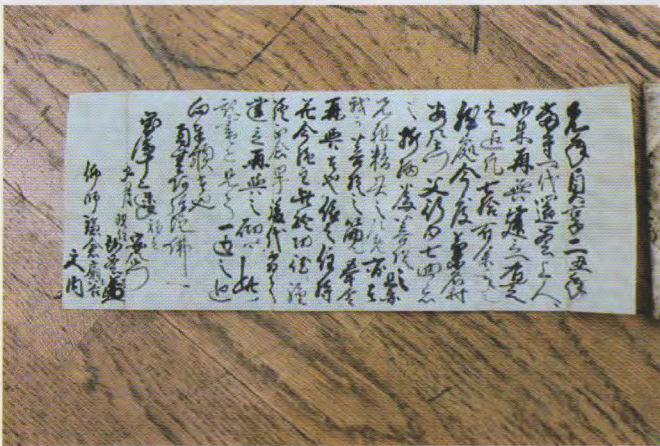
京都の秋は永観堂

阿弥陀様体内より小さな「阿弥陀様」「勢至菩薩」「観音菩薩」

更に書状が出てきた/2016年1月下旬/京都にて



仏師：中西祥雲氏/京都



あみだ様の体内から出てきた書状の大略

先の年、貞享二年(1685年)この寺の初代住持、還誉上人が、ご本尊の阿弥陀如来を再建されて以来、七十年以上が経過した。

そうしたところ、この度菊名村の安左衛門と言う者が、自分の父、(法名)行心の七回忌に折に、先祖の菩提のため、かつまた先祖代々霊位のため、また自ら菩提の立願をなして再興を期した。

そのため住持に願って、施主の功德として鐘經を念じ、如来の再建につなげることができた

施主 安左衛門

仏師 鎌倉扇谷

(野村)文内

五劫山 法蔵院 阿弥陀寺 由緒 沿革 五四世住職 照譽政雄記す

当寺は元久元年(西暦一二〇四年 土御門天皇の御代 源実朝の頃)天台宗の普宿
※聖覚法印の高弟 明円上人により開創され、後、法然上人の教えを
信奉して浄土宗に改められたと伝えられております。(史実不詳)



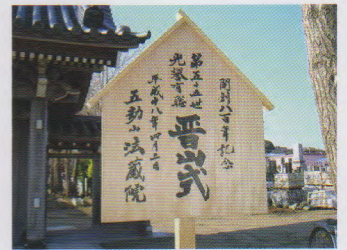
元 京都 総本山 知恩院の直末でしたが、貞享年中(一六八六年頃)鎌倉
光明寺の末寺となったようです。

由緒によりますと、弘治・永禄の頃(一五五六～五八年)房総を掌握していた里見氏が勢力拡大のために、
小田原 北条氏との抗争で、三浦侵略を繰返し、その戦場となり兵火のために、諸堂宇は灰燼に帰されました。
その際、里見氏は三浦城の攻略が出来ないまま、当寺の仏像、梵鐘等をもち去りましたが、途中海が荒れて仏
像を海中に投げ捨てて逃げ帰りました。

この仏像は三浦 菊名の里に流れ着き、無事当寺に帰ることが出来。その縁で菊名の里に、現在も檀家数拾
戸があります。そのお檀家の便利を計って、建立したのが永楽寺であると伝えられております。

北条氏は当寺の諸堂宇の焼失を嘆き学問所をここに移建して改築し 九間半・七間半の本堂を建立しました。

その後、元禄十二年(一六九九年)総門が建立され、何度か再建されてお
りますが、龍の彫刻は創建当初のもので「荒れ狂う波間に龍を配し、その裏に
は梅と二羽の雉が彫られております」この龍は時代の夜に、海上を泳いで対
岸の房州(千葉県)に渡るといふ伝説があり、そのため、龍の左眼には「目打ち」
として五寸釘が打たれていると伝えられております。一説に 左甚五郎(一六
三四年亡)作との説もあります。



嘉永年間(一八四七年)鎌倉光明寺の山門改築の際、旧山門を移築して建立したといわれる山門(間口七
間 奥行き二間の楼門)がありました。

元 子院として山内に 雲光院と真珠院が、末寺に、往生院・円乗院・永楽寺・霊川寺・長沢 浄慶寺など
がありました。

関東大震災にて、総門と庫裏を残して全壊。本堂の古材を売却して、山門の古材にて大正十二年に仮本堂
を建立。その後昭和四七七年に本堂の再建、昭和五五年庫裏、昭和六十年客殿、昭和六十三年に総門が
再建され現在に至っております。平成十八年四月晋山式、法然上人八百年大遠忌を勤修。

年中行事に 正月元旦 修正会、一月二十三日 御忌法要、春季彼岸中日法要五月八日 花祭り、八
月一七日 施餓鬼法要、秋季彼岸中日法要、十一月八日・九日 十夜法要等があります。

また毎月の、お経の勉強会、ご詠歌と、お檀家様と交流をいただいております。

特に 十夜法要は、鎌倉光明寺第八世親譽祐崇上人が後土御門天皇の勅許を頂いて奉修されました「鎌
倉光明寺の十夜法要(一四九五年)」を、その後 長井 不断寺・三崎 光念寺・当山の三カ寺にお許をい
ただいて勤修されはじめた因縁の深い法要です。その故か、三浦三市(武山不動縁日・宮田の神事相撲)の一
つとしてその名が知られ大変賑やかに勤められております。

* 聖覚法印(仁安二年・1167-1135)。法然上人のお弟子の中でも、よく上人の念仏の教えを理解し、
「御往生の後疑をたれの人にか決すべきと、上人にとひたてまつりけるに、聖覚法印わが心をしれりとの給へり」
(法然上人行状繪図)とあるように、すぐれた念仏の行者として過ごされた方です。親鸞聖人も生涯よき先輩と
仰ぎ、師の著されました『唯信鈔』(承久3-1221 宗祖49)を、お写しになられたり(寛喜2 1230 宗祖58)、その
お心を広く有縁の方々に勧めておられます。

書状深読み

左面の書は 以前法蔵院第 54 世 政雄上人(現住職の父)が記したものです。
この度、阿弥陀様の体内より出てきた「書状」と共通する部分があるので
ここに記します。

共に 気になる部分には マーカーにて黄色で着色しました。



「政雄上人の書状に 1686 年に京都の知恩院の末寺から、鎌倉光明寺の末寺になったと記されている。

その後、房総半島を掌握していた里見氏が勢力拡大のために三浦侵略を試みたが、攻略できないまま法蔵院の仏像、鐘等を船に乗せ房総半島に逃げ帰った際に、海が荒れ仏像、鐘等を海に投げ捨てた。その仏像が三浦市菊名に流れ着き、その縁で、菊名に数十件のお檀家様とのご縁をいただき、遠い法蔵院では墓参が大変なので、お檀家様の墓参の便宜のために永楽寺を建立したと記されている。

一方、阿弥陀様体内からの書状には、1685 年に時の住職 還誉上人がこの本尊様を建立され、その後 70 年以上が経過、三浦市菊名の安左衛門と称される方が、父親の 7 回忌供養、先祖供養のために阿弥陀様を再建したと記されている」

いかがでしょうか？

詳細は不明なままですが、どうやら現在の阿弥陀様は 1685 年ごろに建立され、最初の修繕はその 70 年後、その後数回の修繕がなされ現在に至っています。

また共に書状には、「三浦市菊名」と地名が出てきています。

法蔵院と菊名の地域は縁が深いようです。

いずれにしても、330 年前に建立された阿弥陀様が京都で修繕され法蔵院へお戻りになりました。

330 年前の「安左衛門」さんと同じように、ご参拝いただき、檀信徒皆様の先祖供養を共にお勤めいたしましょう。

2016.6.1 工房訪問京都にて



西川博之箔押師

漆塗りが終わりこれから金箔を貼る法蔵院の阿弥陀様とパチリ！

中西祥雲仏師

手前はほぼ完成の「善導大師」「法然上人」

奥は修繕中の歴代上人



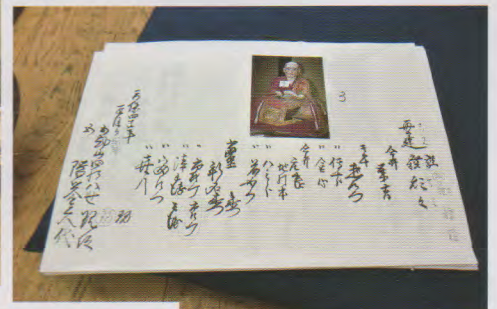
2015.10.15 京都へ向け搬出



2016.6.2 修繕の様子



歴代上人修繕中



歴代上人の背中に
書かれていた書



完成間近な善導大師・法然上人



2016.7.4 善導大師・法然上人像お帰り



2016.7.25 阿弥陀様お帰り



常華

堂内の常華を新調しました。旧前の常華は11本立て3尺名古屋製、新調品は5本立ての3.5尺京都製。京都の常華は堀が深く立派です。こちらも中西祥雲仏師に作成していただきました。なんと一本の木から彫って作成していきます。「常華」とは蓮の花が常に咲いている意味です。

2016.9.27 歴代上人お帰り



左から大西嘉七仏具店様、中西先生、住職、西尾仏具店様。

京都より中西祥雲佛師来寺。開眼供養にご参加くださいました。

善導大師



法然大師



35世 頼譽上人



36世 欣譽上人



37世 環譽上人

不明上人



匠の肖像



ギョロリ。屋根の上から睨みをきかせる鬼瓦。

瓦職人の中でも、特に、鬼瓦を造る職人たちを「鬼師」と呼びます。今回の匠は、鬼師・小林章男さん。鬼瓦造りの第一人者です。

現在までに、多くの歴史的建造物の瓦の修理・復元を手がけてきた小林さん。東大寺大仏殿の鬼瓦復元も手がけています。

「大きいもんですねえ、こんなのが屋根に乗っていたら、小さく見える、この大きな鼻が見えないんですよ、はっきり。裏の造りを見てください。これだけごっつい梁を使っている。この裏の強さが表に出てると思うんです。」

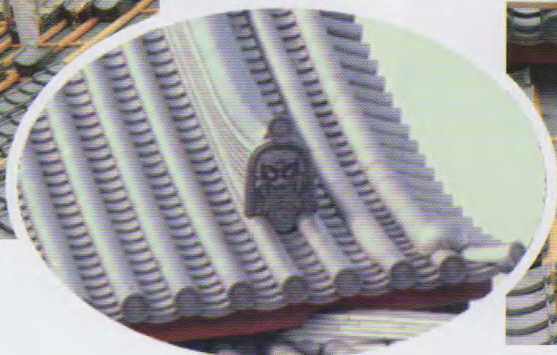
瓦博士の異名を持つ小林さん。自らの足で全国から瓦を集め、研究を重ねてきました。一番の関心は、時代背景と風土性。建物と調和した鬼の姿を作り出すのです。

「良い鬼だから、それをどこに乗せても良いもんじゃない。建築に使うんだから、その建物に合ったものを造ってほしいなと。この時代だから、こんなのを、ということを手で勉強する気持ちにならない。教えてもらってるだけでは、とっても進歩していかないと感じます。」

2016.3.1 鬼瓦



以前のものより大きくなり、迫力が増しました



「瓦宇」について 神社仏閣・文化財・国宝級の建物等に載せる瓦を製造していた会社

法蔵院本堂は瓦宇の工事ではない 客殿、庫裏、山門、書院、地藏堂は瓦宇の工事である

小林章男

没年月日:2010-03-27

分野:建築, 建築家 (建)

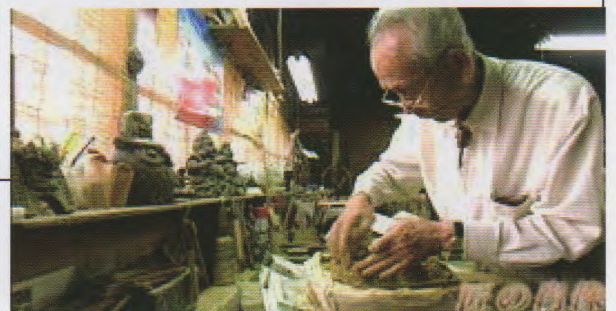


屋根瓦の製作者であり、国の選定保存技術保持者であった小林章男は、膀胱癌のため奈良市の病院で3月27日死去した。享年88。1921（大正10）年12月7日、江戸時代文政年間からつづく瓦匠、屋号「瓦宇」（かわらう）の当主の長男として奈良県奈良市に生まれる。1938（昭和13）年、家業の瓦製造業に就き、以後数多くの国宝、重要文化財等に指定された建造物の屋根瓦の製造及び修理事業に携わる。81年、奈良県瓦葺高等職業訓練学校（奈良県天理市）校長に就任、88年まで務める。82年、「現代の名工」として労働大臣表彰を受ける。84年、株式会社瓦宇工業所代表取締役就任。同年、「鬼瓦づくり」で第4回伝統文化ポーラ賞（ポーラ伝統文化振興財団）の特賞を受賞。88年、国宝「法隆寺五重塔」をはじめとして、本瓦葺の建造物の修理で捕捉される役瓦（巴瓦、鬼瓦、鯨、鴟尾等）の製作技術が高く評価され、「屋根瓦製作（鬼師）」として国の選定保存技術保持者に認定される。1991（平成3）年、瓦職人の集まりである「日本鬼師の会」の会長に就任（95年まで）。同年、日本伝統瓦技術保存会の設立にあたり会長となる（97年まで）。また勲六等瑞宝章を受章。2002年、株式会社瓦宇工業所の会長に就任。代表的な仕事としては、昭和の東大寺大仏殿の瓦葺替工事を棟梁として成し遂げた。ほかに古建築瓦葺替工事は、近畿、中国、四国を中心に全国に及んでいる。この間、古代、中世から近世にわたるまで、瓦の様式、製法等を、全国にわたる調査と製作という実践を通じて蓄積された経験、技術、知見は、建築史、歴史考古学等の学界に多大に寄与した。また、多くの著作を残しており、主要な著作は下記のとおりである。『対談・鬼瓦その他』（大蔵経済出版、1980年）、『鬼瓦』（大蔵経済出版、1981年）、中村光行共著『鬼・鬼瓦（INAX BOOKLET）』（INAX、1982年）、『生きている鬼瓦』（石州瓦販売協業組合、1985年）、『獅子口を探る』（小林章男、1995年）、山田脩二共著『瓦—歴史とデザイン』（淡交社、2001年）、日本鬼師の会、京都府大江町共編『鬼瓦（棟端飾瓦）造り 鬼瓦読本』（日本鬼師の会、2004年）。なお、『史迹と美術』（史迹美術同致会）における連載「鬼瓦百選」（第1回は721号）は、生前に原稿がすべて準備されていたため、同誌820号（2011年12月）において100回をもって完結した。

出典：日本美術年鑑平成23年版(432頁)

登録日：2014年10月27日

更新日：2014年12月12日 (更新履歴)



鴟尾（しび）は魚の形、鯨（海に住み、よく雨を降らすインドの空想の魚）火除けのまじないにしたといわれている。



特許

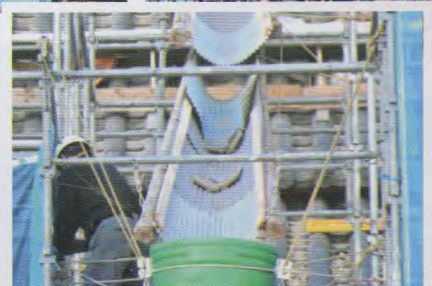
2015.4.10 瓦納品



2015.11.11 ~ 足場組立



2015.11.30 ~ 瓦外寸



2016.1.12～ 鴟尾(しび)棟上げ



2016.2.13～



2016.9.1 本堂足場外す



2016.10.6 本堂棟飾り





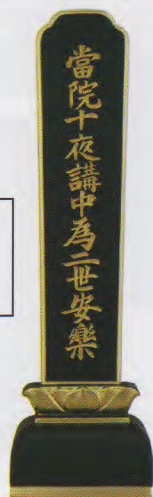
修繕された堂内
阿弥陀様、観音菩薩様、勢至菩薩様
手前には新調した常華があります



法蔵院檀信徒様先祖を奉る位牌新調
先代 54 世政雄上人の筆



十夜位牌
修繕しました



2016.9.22 彼岸中日法要・お経の勉強会
棟飾りと記念写真 肩幅ほどの大きさ

2016.2.19 屋根裏



屋根裏に改修を記念した木札を奉納

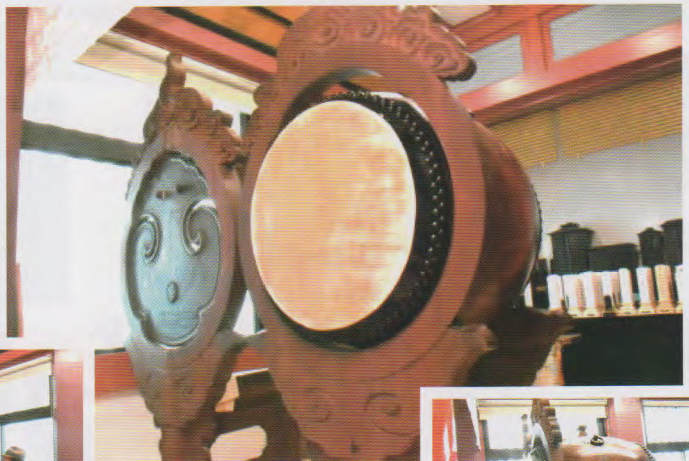
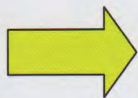
2016.5.8 誕生仏・花御堂修繕

修繕された誕生仏、花御堂で
花祭りを檀信徒様・
津久井幼稚園園児と祝います

誕生仏



2016.5.31～.7.4 堂内大太鼓表皮張替え



2016.10.3 境内地外壁改修



2015.9.24~11.4 納骨堂新築



2015.8.29 ペット納骨堂新築



2016.9.30 地藏堂・水汲み場塗装





横須賀市津久井1丁目12-5

電話 848-0154

FAX 848-4415



法蔵院QR